

岩手県水産技術センター

ニュース No.106

Iwate Fisheries Technology Center NEWS No.106

「ぎょれんーいわて漁連情報」
「水産技術センター報告」のホームページへの掲載について

岩手県漁業協同組合連合会では季刊誌「ぎょれんーいわて漁連情報」を発行しています。当センターでは、研究内容を紹介するために、同誌に「水産技術センター報告」を連載していますが、この度、以下の内容についてホームページに掲載します。

掲載するのは、以下の内容です。

- ・「No.791 (2025年4月号)」に掲載した「潜水調査の結果から見る磯根資源の長期動向について」(増養殖部 渡邊隼人主任専門研究員)
- ・「No.792 (2025年7月号)」に掲載した「養殖漁場の底質調査」(漁場保全部 高木稔主査専門研究員)

詳しくは、それぞれ以下をご覧ください。

- ・No.791「潜水調査の結果から見る磯根資源の長期動向について」

<https://www2.suigi.pref.iwate.jp/wp-content/uploads/2025/07/20250709news-1.pdf>

- ・No.792「養殖漁場の底質調査」

<https://www2.suigi.pref.iwate.jp/wp-content/uploads/2025/07/20250709news-2.pdf>

潜水調査の結果から見る
磯根資源の長期動向について

増養殖部 主任専門研究員 渡邊隼人

水産技術
センター
報告

Fisheries Technology Center Report

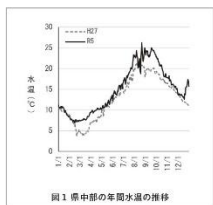


図1 県中部の年間水温の推移

【調査経緯】
平成22年と令和6年の主な養殖漁場の水温推移について、エゾアワビは、0.39℃/mで令和6年は1.3℃/mでした。キタムラサキウニは、31.42℃/mで令和6年は3.6℃/mでエゾバフンウニは、0.92℃/mで令和6

す。
本研究では、潜水調査より得られたデータをもとに、養殖漁場の水温分布、本県沿岸で発生している養殖漁場の水温変化、水温分布に基づいて、検討しました。

【調査結果】
県水産技術センターから、潜水調査の結果から見る磯根資源の長期動向について
寄稿いただきましたので掲載します。

養殖漁場の底質調査

漁場保全部 主査専門研究員 高木 稔

水産技術
センター
報告

Fisheries Technology Center Report

【はじめに】
田舎田岸では、リアス沿岸による内海の静穏な環境で、カタチイカやカキ類、イサナなどの養殖漁業が盛んに行われています。皆さんは海産物という、水産や地産、養殖などの水産物に感謝しながら消費されていると思いますが、目にするのが難しい海底の「底質」も重要な海産物の要素です。
水産技術センターでは、昭和50年代から県内の主要な養殖漁場において、底質調査を実施しています。そこで、今回は底質調査によって、漁場の底質について紹介いたします。



写真1 採泥の様子 (写真中央：エクマンバジ採泥器)

県水産技術センターから、養殖漁場の底質調査の研究結果について寄稿いただきましたので掲載します。